

(別紙) 令和7年度 第6回加西市総合政策審議会の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
<p>会長</p>	<p>開 会</p> <p>1 会長あいさつ 年末のお忙しい中、ご参集いただき感謝申し上げます。いよいよ最後の審議会となった。ここでの審議の成果を市長に答申するという予定もある。本日も引き続き、ご協力をよろしく願います。</p> <p>2 議事 (1) 第6次加西市総合計画(後期基本計画)(案)について —資料1～3に基づき事務局から説明— > 意見なし</p> <p>(2) 加西市行財政改革プラン(案)について —資料4・5に基づき事務局から説明—</p> <p>> 資料4、20ページ「子育て環境の充実」の外部評価について質問する。遊戯施設「アスモ」の利用者数が増加傾向と示されているが、直近1カ月ほど施設の様子を確認したところ、明らかに利用者がいないように見えた。ここでの表現と実際の利用状況との間に乖離があるように感じる。</p> <p>> 遊戯施設の利用者数推移については事実確認を行い、必要に応じて修正を行う。また、10月末にはイオンモール内に、こどもの遊び場「のびっこジャンボ」が設営されたことから、加西市全体としては子育て世帯を対象とした遊び場の供給体制が整いつつある状況である。</p> <p>●アスモ利用者の推移(うち、こども広場利用者数) R4: 38,996人(38,073人) R5: 44,530人(42,426人) R6: 46,837人(45,214人) ※年度利用者数においては直近の実績(令和6年度)まで増加傾向にあり記載の修正は不要とする。</p> <p>3 第6次加西市総合計画(答申) —会長から市長に対して答申—</p>
<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>副会長</p>	<p>閉 会</p> <p><副会長あいさつ> 計6回にわたり、委員の皆様には長時間のご審議をしていただいたことに御礼申し上げます。また、行政側も政策評価から始まり、終始真摯に向き合っていたことに感謝する。</p> <p>本総合計画は「ミライナカ」、いわゆる「田舎でありながら最先端の技術を持つ加西市を目指したい」という想いで立ち上げた計画であった。しかし残念ながら、人口は予想を上回る勢いで減少しているのが現実である。人口減少は加西市に限ったことではなく、日本全国の地方部が共通して直面している課題でもある。こうした状況下で、加西市はふるさと納税による恩恵を受け、今後は学校統合をはじめとする大型投資が本格化する局面を迎える。それらを本当の意味で真に生かせるかどうかは、行政と市民がどのように歩んでいくかにかかっていると考える。</p> <p>答申にも掲げられた「協創のまちづくり」とは、行政だけに任せるのではなく、我々市民も共にまちづくりに参加していく必要があると改めて感じている。委員の皆様には今後も政策評価を通じて関わっていただくことになるかと思うが、今回の答申を改めて読み直していただき、評価の際には、時には厳しく、時には温かい助言を送りながら、市民参画による「協創のまちづくり」の一助となっていきたい。</p> <p>そして改めて、その取り組みを主導するのは、やはり行政である。この現実を踏まえて、決意を新たに、さらなる尽力をいただけるよう、よろしく願い申し上げます。</p>

<p>会長</p>	<p><会長あいさつ></p> <p>全6回にわたる審議会へのご尽力に深く感謝する。今年度は、通常の政策評価に加え、後期基本計画の策定という重要な局面に関わっていただいた。委員の皆様には大変負担の大きい審議会であったが、その真摯な参画により、無事に答申まで完遂できたことを厚く御礼申し上げる。また、膨大な資料を作成し、説明いただいた事務局にも感謝申し上げます。</p> <p>本審議회를振り返り、印象深かったことは委員の皆様と行政の距離の近さである。特に部会の際は、委員の皆様と行政の方々がほぼ同数で向き合い、率直かつ建設的な意見交換を行っている姿が非常に印象深く残っている。</p> <p>加西市は人口4万人規模であり、予測通りに進むと少しずつ人口が減少していくが、行政と市民の皆様が密に連携してまちを作る「協創のまちづくり」を推進する上では、極めて適した人口規模であると感じている。100年ほど前にイギリスで提唱され、現代のまちづくりにおいても参考とされている「田園都市」も人口3万人ほどの都市である。それを参照すると、加西市で掲げる「協創のまちづくり」を進める上で、大きな自治体では成し得ない、理想的な審議会であると感じる。</p> <p>一方で、古くからの地域のまちづくりの仕組みと、新しい方々や若い人たちとの協創というのは、まだ発展途上のように感じられた部分もある。本審議会には多様な属性や世代が集い、男女比のバランスも良好であった。ここで構築されたネットワークは非常に貴重であるため、この「協創のネットワーク」を生かして、委員各位がそれぞれの立場で周囲を巻き込む形で協創の輪が広がっていけば、加西市はより魅力的な「ミライナカ」に発展していくのではないかと期待を持っている。そのような近い未来を思い描きつつ、私の挨拶とする。</p>
<p>市長</p>	<p><市長あいさつ></p> <p>委員の皆様方には、本総合計画の策定にあたり多大なるご協力を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。会長からもお話があったように、今年は通常の審議に加えて計画策定が重なる時期であった。非常にタイトなスケジュールの中、時間外も含めて熱心に議論を尽くしていただいたと事務局からも報告を受けている。皆様方のその熱意に応えるべく、今後の市政推進に対し身の引き締まる思いである。本日いただいた答申の内容を真摯に受け止め、着実に市政執行に取り組んでまいります。</p> <p>現在、加西市では病院や学校などの大型事業の整備を進めており、大規模な事業が重なっているとの印象をお持ちの方も多いかと思う。しかし、これらは以前から本来取り組むべき事業でもあり、後送りにすると二度と実現できなくなると考えているため、強い覚悟を持ってこの時期に取り組んでいるものである。</p> <p>一方で、どうしてもハード事業が目につきがちであるが、加西市の住みやすさの本質は、やはりソフト事業にあると考えている。教育力の向上、健康づくり、安全安心なまちづくり、そして人と人の絆を深めること、それらが非常に重要である。加えて、芸術文化やスポーツの振興など、総合計画に掲げたあらゆる項目を実行していくことが、将来にわたって「選ばれるまち」につながっていくと確信している。</p> <p>ただ、忘れてはいけないのはやはり「財政規律」である。健全な財政基盤を維持しながら、効果的な政策推進を図ってまいります。今後とも、皆様方のご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。</p>